

授業科目名	障害児保育	教員名	安東 末廣 (実務経験のある教員)	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	必修
授業形態	演習	担当形態	単独		こども音楽療育 士	選択
科目番号	F0I301	配当年次	3 年前期	卒業要件	小幼コース	選択
単位数	2 単位				幼保コース	必修
科目						
施行規則に 定める科目区分 又は事項等						
一般目標	障害児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。障害児保育に必要な知識を習得する。様々な障害並びに障害児保育に必要な知識を習得し、障害児保育の実際について理解を深める。					
到達目標	(1) 発達を促す障害児保育の概念や目的についての整理し、述べるができる。 (2) 子供の発達について理解し、個に応じた障害児保育の基本について説明できる。 (3) 保育の場における種々の障害の理解と援助について述べるができる。 (4) いわゆる気になる子供としての発達障害の理解と援助について述べるができる。 (5) 保育課程に基づいた指導計画、記録、評価について説明できる。 (6) 個に応じた障害児保育の実践例について理解し、説明できる。 (7) 保護者や家族との連携、地域の専門機関との連携について理解し、説明できる。 (8) 特別支援教育コーディネーターとの連携の下で、小学校教育へのスムーズな移行について理解し、説明できる。					
授業の概要	各種障害に関する基礎知識を基に、保育の実践記録の分析・演習を通して、障害のある子どもの理解と発達を援助する保育の在り方について考察する。障害児保育の今日的な諸課題、例えば障害児と保育の計画及び個別支援計画、健常児の障害児理解、家族への支援、地域との連携及び地域発達支援ネットワークづくり等を取り上げ、障害児保育に必要な知識を習得し、保育者としての資質を向上させる。授業形態は、演習とする。なお、アクティブラーニングとして、授業内容の定着を図るための論述式小テストを2度実施する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	第1回：障害児保育の概念とその歴史的変遷 障害児保育が現在のような保育園や幼稚園で受け入れが行われるようになったのか歴史的変遷について理解し、障害児保育の意義やその実際から障害児保育の概念について理解する。(目標(1)) 第2回：障害児保育の基本原則 乳幼児の一般的な発達について理解するとともに発達の考え方について理解し、障害児保育の基本原則として、発達に応じた保育や障害に応じた保育、一人ひとりに応じた保育を行うことであることを理解する。(目標(2)) 第3回：障害の理解と援助 肢体不自由児・視覚・聴覚障害児・重症心身障害児等 体の不自由な幼児や視聴覚障害児の障害の特性について理解し、その障害に応じた援助の実際について理解するとともに演習を行って指導について体得する。(目標(3)) 第4回：知的障害児の理解と援助 知的障害児の特性について、障害が軽度から重度の場合の指導事例について知り、知的障害児への指導について演習を行って体得する。(目標(3)) 第5回：発達障害児の理解と援助Ⅰ ADHD(注意欠陥多動症)・LD(限局性学習症) ADHDとLDの障害の特性について理解し、その障害の特性に応じた援助の実際について演習で体得する。(目標(4)) 論述式小テストの実施 第6回：発達障害児の理解と援助Ⅱ ASD(自閉スペクトラム症) ASDの障害の特性について理解し、その障害の特性に応じた援助の実際について演習で体得する。(目標(4)) 第7回：保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 「保育課程」の編成の基準および配慮などについて理解するとともに、実際の乳幼児期の発達の特性や連続性を踏まえた指導計画や記録や評価について理解する。(目標(5)) 第8回：障害児保育の実際Ⅰ 個々の発達を促す生活や遊びの環境・子ども同士のかかわり					

	障害児の一人ひとりの発達課題に応じた生活や環境づくりの工夫を行うことや発達を促す子ども同士の意図的なかわり方について、事例をとおして理解する。(目標(6)) 第9回：障害児保育の実践Ⅱ 職員間の協働の在り方等 障害児の一人ひとりの発達を促すには、職員間の共通理解にもとづく一貫したや継続的な指導が必要で、そのために職員が協働する必要があることを理解し、具体的な取組について理解する。(目標(6)) 第10回：保護者や家族に対する理解と支援 障害児の保護者や家族に対する理解の必要性を認識し、どのような支援を行えばよいかについて具体例をとおして理解する。(目標(7)) 論述式小テストの実施 第11回：地域の専門機関との連携及び個別の支援計画の作成 「個別の支援計画」の意義やその具体的な内容および、個別の支援計画作成に必要な関係する専門機関の役割について理解し、実際に作成する。(目標(7)) 第12回：小学校との連携 小学校との連携では、特別支援教育コーディネーターとの連携の下に、特に入学前の情報交換により入学前の指導の充実や入学後の円滑な学校生活が行われるようにすることを理解する。連携をとる手段や方法、情報の整理および情報交換の実践について演習的な理解をする。(目標(8)) 第13回：保健・医療における現状と課題 障害児が利用する主な保健・医療機関について知るとともに、障害児の診療状況についてどのような状況であるかということやその課題について理解する。(目標(7)) 第14回：福祉・教育における現状と課題 障害児に対する福祉および教育の現状について理解するとともに、よりよい障害児の成長を促すための諸々の課題について理解する。(目標(8)) 第15回：障害児保育の実践 これまでの講義を生かして想定した障害児の保育をどのように行うかを模擬実習等で実践する。(目標(6)) 定期試験
学生に対する評価	論述式小テスト 40% 定期試験 60% なお、論述式小テストについては、以下の方法等による。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
時間外の学習について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 毎回講義の最後に、次回の講義項目を伝えるので、必ず事前にテキストあるいはプリント等を調べ、不明な点を調べておくこと。
テキスト	『新・障害のある子どもの保育』 和泉美智枝 著 (株)みらい
参考書・参考資料等	『障害児保育』 ミネルバ書房
担当者からのメッセージ	講義内容について、シラバスの到達目標に記載されているように自分の言葉で他者に説明できるように努めること。
オフィスアワー	授業の前後の時間 (メール等でアポイントを取ること。)
備考	担当教員は、臨床心理士・スクールカウンセラーとしての経験を活かし講義を行う。